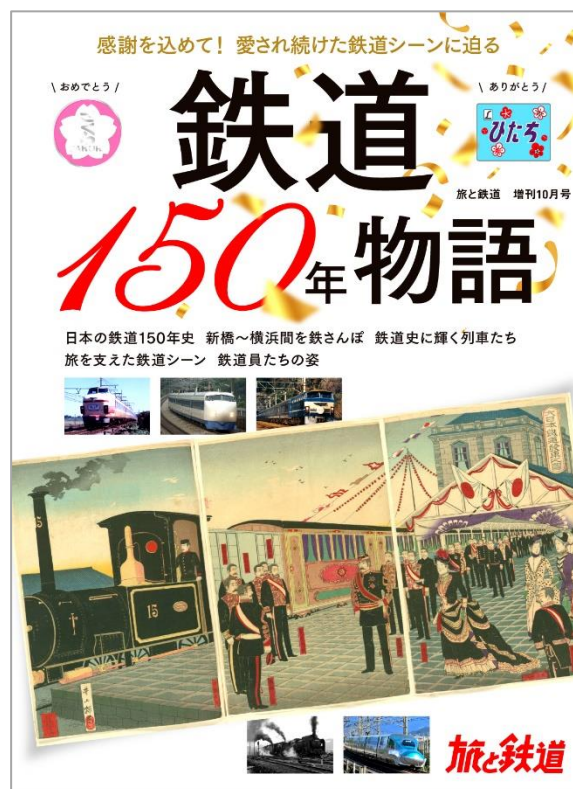


各 位

2022年8月19日
株式会社天夢人

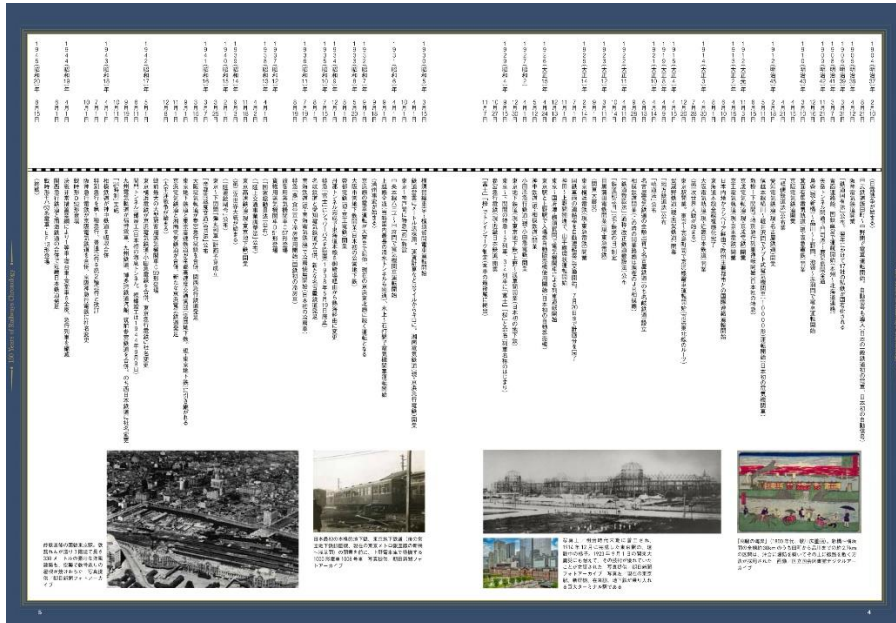
2022年10月14日に日本の鉄道は開業から150周年を迎えます。
そこで、150年の歴史から印象に残る鉄道シーンをクローズアップした、
『旅と鉄道』2022年増刊10月号「鉄道150年物語」を発刊！

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2022年8月22日に、『旅と鉄道』2022年増刊10月号「鉄道150年物語」を刊行いたします。



1872年10月14日、新橋～横浜間にはじめて開業し、いよいよ日本の鉄道が150周年を迎えようとしています。そこで、この150年の鉄道史をまとめた増刊号です。「旅と鉄道」らしく、これまでの旅のシーンを支え、ブームを巻き起こしてきた、新旧の列車や、旅にまつわるシーンをテーマごとにまとめて特集。記憶に残る、懐かしい鉄道シーンの数々を、ダイジェストで振り返ることができる、完全保存版の一冊です。

日本の鉄道が歩んできた 150 年を振り返る年表を掲載



日本の鉄道が歩んできた 150 年を、1872～1945 年、1945～1987 年、1987～2022 年の三世代に分けて、主な出来事をまとめた年表を掲載。日本の鉄道が進化発展し、現在へと移り変わる出来事を振り返ることができる壮大な年表です。

鉄道がはじめて走った、新橋～横浜間を巡る鉄道の起源に迫る旅を掲載



日本ではじめて鉄道が走った新橋～横浜間に、往時の鉄道を探る旅を取材。当時の新橋駅跡に建つ、旧新橋停車場から、横浜の桜木町駅界隈へと、鉄道写真家の南正時さんが訪ね歩いています。途中、高輪ゲートウェイ、品川、大森、六郷川橋梁などを訪ねつつ、桜木町駅近くにある掃部山(かもんやま)公園や横浜港駅跡など、鉄道の起源を巡る旅さんぽです。

150年前に走った1号機関車に出会える「鉄道博物館」を取材

鉄道草創期の名車阿

神光号(1290形蒸気機関車) 1861年
日本の鉄道史上、最も古い蒸気機関車。1861年に、大井町で製造された。当時の蒸気機関車は、木製の車体と、鉄製のボイラーで構成されていた。この神光号は、現在も、鉄道博物館で展示されている。

小笠原 大正時代
小笠原は、大正時代の代表的な機関車。1912年に製造された。この機関車は、当時の蒸気機関車の代表格として知られている。

150年前に走った1号機関車を展示

「鉄道博物館」で名車両に出会う!

日本の鉄道史上、最も古い蒸気機関車。1861年に、大井町で製造された。この神光号は、現在も、鉄道博物館で展示されている。

1号機関車(100形蒸気機関車) 1871年
日本の鉄道史上、最も古い蒸気機関車。1871年に、大井町で製造された。この機関車は、現在も、鉄道博物館で展示されている。

創業期の客車(ラブリ)
創業期の客車。1871年に製造された。この客車は、当時の客車の代表格として知られている。

新橋駅
新橋駅は、日本の鉄道史上、最も古い駅。1872年に開業した。この駅は、現在も、鉄道博物館で展示されている。

鉄道博物館は、日本の鉄道史を伝えるための施設。ここでは、150年前に走った1号機関車をはじめ、多くの名車両が展示されている。また、当時の客車や駅舎も再現されている。鉄道博物館は、鉄道ファンだけでなく、一般の人々にも人気がある施設である。

埼玉県・さいたま市の「鉄道博物館」では、150年前に開業した新橋～横浜間で活躍した、1号機関車を保存展示しています。「鉄道博物館」に保存展示されている、今へと続く名車両の数々を紹介しています。

鉄道史に輝く列車たちを特集しています



一大ブームとなった客車寝台特急!
ブルートレインの栄枯盛衰

かつては、日本の鉄道史上、最も重要な列車の一つ。ブルートレインは、日本の鉄道史に輝いた列車。しかし、近年は、客車の廃止や、寝台特急の廃止などにより、その地位は低下している。ブルートレインの栄枯盛衰は、日本の鉄道史を語る上で欠かせない。

ブルートレインは、日本の鉄道史上、最も重要な列車の一つ。かつては、日本の鉄道史上、最も重要な列車の一つ。ブルートレインは、日本の鉄道史に輝いた列車。しかし、近年は、客車の廃止や、寝台特急の廃止などにより、その地位は低下している。ブルートレインの栄枯盛衰は、日本の鉄道史を語る上で欠かせない。

最新新幹線車両開発 東海道・山陽新幹線



100系
1982年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。



0系
1959年に登場した。日本の新幹線の先駆けとして知られている。



300系
2007年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。



500系
2008年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。



N700S
2011年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。



N700
2007年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。



700系
2002年に登場した。当時の新幹線の代表格として知られている。

時速210km→320kmへスピードアップ

高速化し続ける新幹線

日本の新幹線は、近年、高速化が進んでいる。時速210kmから320kmへとスピードアップしている。これは、日本の新幹線の歴史を語る上で重要なポイントである。



新幹線種別	最高時速
0系	220km/h
100系	230km/h
300系	270km/h
500系	300km/h
N700系	300km/h
E5系	320km/h



すれ違う列車の迫りも楽しめる
景色を楽しむ車両
展望車と前面展望車の系譜

窓から眺める景色を楽しむことは、鉄道旅行の楽しみのひとつである。列車は展望車となり、そこで眺め楽しむことができる。そして、前面展望車の登場も楽しみである。

▲写真提供



1 展望車と前面展望車の系譜
展望車は、1911年（明治44年）に、東武東上線（現東武東上線）で登場した。これは、東武東上線の特急列車「東武東上線特急」の一部として登場した。この列車は、東武東上線の沿線風景を楽しむことができる。そして、前面展望車の登場も楽しみである。

2 前面展望車の系譜
前面展望車は、1950年代後半に登場した。これは、前面展望車の登場も楽しみである。そして、前面展望車の登場も楽しみである。

3 展望車の系譜
展望車は、1911年（明治44年）に登場した。これは、展望車の登場も楽しみである。そして、展望車の登場も楽しみである。

4 前面展望車の系譜
前面展望車は、1950年代後半に登場した。これは、前面展望車の登場も楽しみである。そして、前面展望車の登場も楽しみである。

寝台特急、新幹線、展望車、エル特急、私鉄特急など、日本の鉄道シーンにおいて、注目を集め、話題となった列車群をクローズアップして特集しています。時代背景などを振り返りつつ、強く印象に残る人気列車たちの歴史を振り返ります。

日本列島の旅を支えてきた、鉄道シーンを振り返ります

国鉄時代の周遊券

条件を満たせば、旅客自身が自由に旅程を決めることができるものだった

「国鉄線・鉄道連絡船・国鉄高速バスを営業キロで101キロ以上利用すること」などの条件があった。

日本交通公社（現 株式会社 JTB）によって発行されたもの。普通周遊乗車券は旅行会社での取り扱いが行われていた。

等級制が導入されていた

「東京電線」とは「東京電線株式会社」の略

周遊券の旅

楽しみ方は無限大！

周遊券の登場は、鉄道旅行の楽しみ方を大きく変えた。自由に旅程を決めることができるようになった。そして、周遊券の旅は、鉄道旅行の楽しみ方を無限大にした。

周遊券の登場は、鉄道旅行の楽しみ方を大きく変えた。自由に旅程を決めることができるようになった。そして、周遊券の旅は、鉄道旅行の楽しみ方を無限大にした。

周遊券の登場は、鉄道旅行の楽しみ方を大きく変えた。自由に旅程を決めることができるようになった。そして、周遊券の旅は、鉄道旅行の楽しみ方を無限大にした。

「青春18きっぷ」や周遊券、「ディスカバー・ジャパン」や「一枚のきっぷから」などの国鉄のキャンペーンなど、旅人たちに愛され、多くの人々を旅に駆り立ててきた鉄道シーンを振り返ります。駅スタンプや駅弁の歴史も含め、150年の歴史の中で輝きを放った出来事に着目しています。

『旅と鉄道』の執筆陣、カメラマンによる、ひとりひとりの「鉄道 150 年物語」を 16 編掲載



『旅と鉄道』の執筆陣や、鉄道カメラマン、天夢人発刊の鉄道単行本の著者 16 人に、それぞれの鉄道の記憶を辿ってもらったエッセーを寄稿いただきました。ひとりひとりの個性にあふれ、ニッチな鉄道シーンも綴られた、読み応えのあるエッセー集となっています。

【目次】

- 鉄道150年年表
 - 1872～1945 年
 - 1945～1987 年
 - 1987～2022 年
- 鉄道の起源を巡る志んばし(新橋)～横濱 鐵道道中膝栗毛
- 新橋停車場跡が発掘された！
- 150 年前に走った 1 号機関車を展示「鉄道博物館」で名車両に出会う！

<第一章 鉄道史に輝く列車たち>

- ブルートレインの栄枯盛衰
- 高速化し続ける新幹線
- 展望車と前面展望車の系譜
- エル特急が列島中を走った
- 会社のカラーが現れた 私鉄特急の進化
- 絶景を眺め、食事も楽しめる 観光列車がブーム！
- 新しい旅の形 豪華クルーズトレイン

<第二章 旅を支えた鉄道シーンの数々>

- 青春 18 きっぷと夜行列車
- 楽しみ方は無限大 周遊券の旅
- 鉄道ブームをつくった国鉄キャンペーンの数々
- 駅スタンプの古今東西
- 鉄道とともに歩んだ駅弁

<第三章 十人十鉄の鉄道 150 年物語>

- レイルウェイズグラフィックが撮り続けた列車を支えた鉄道員たち(荒川好夫)
- 芦原 伸(本誌名誉編集長・ノンフィクション・紀行作家)、川島令三(鉄道アナリスト)、櫻井 寛(鉄道フォトジャーナリスト)、松本典久(鉄道ジャーナリスト)、杉崎行恭(カメラマン&ライター)、辻阪昭浩(カメラマン&ライター)、池口英司(カメラマン&ライター)、佐々倉 実(カメラマン)、牧野和人(写真家)、持田昭俊(鉄道カメラマン)、滝口忠雄(鉄道カメラマン・ライター・元 JR 貨物機関士)、平賀尉哲(鉄道ライター)、植村 誠(ライター)、木村嘉男(鉄道ライター・元時刻表編集長)、蜂谷あす美(旅の文筆家)

Column

- 「新橋～横浜間」時刻表の変遷をたどる
- 開業時の新橋～横浜間 53 分から 150 年でここまで進化した！
- 追憶！ 鉄道 100 周年
- 鉄道開業 150 年 INFORMATION(キャンペーン・グッズ販売・企画きっぷ・駅の展示)

【書誌情報】

書名:『旅と鉄道』2022 年増刊 10 月号「鉄道 150 年物語」

仕様:A4 変型判・112 ページ

定価:1760 円(税込)

発売日:2022 年 8 月 22 日

全国書店、オンライン書店の Amazon などで発売中。

<https://amzn.to/3lfb1lJ>

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp>

2007 年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月 21 日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:真柄

Tel: 03-6837-4830 / E-mail: tabitetsu@temjin-g.co.jp

URL: <https://www.temjin-g.co.jp>